

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり (2ユニット合同)		
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvoCd=2270600535-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人ひとりの入居者様に対して、その方の生活歴、好みなどの『その人らしい暮らし方』を尊重し、安全に、安心して暮らして頂けるよう、支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切に、ホームでの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様が安心して穏やかに、『笑顔』がたくさんみられるように、『日々の生活』を大切にしながら、自分達のケアを立ち止まり振り返りながら、みのりスタッフ一同チームとして、より質の高いケアを目指しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人に逐一許可を得なくてもよい管理者の権限範囲が敷かれ、また「介護への意欲にもなる」との考えを以て職員意見が速やかに実現されている事業所です。高齢化により個別対応が求められるなか、職員の進言もさらに活気づいています。また管理者は上下の隔たりなく現場に入り込んでいることから細かなハウレンソウによる安心感が醸成され、法人にとっては人心掌握と定着率の高まりにつながり、双方に有益に働いています。介護の要となるプランは試行錯誤を繰り返して「生活リズム表」を活用した現在の形になり、業務日誌には1表～3表の特記事項を落とし込み、意識と実践のミエル化が図られていることを視認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最高の生活を収穫する』『もうひとつの我が家』という理念の下、本当の家族に近づき、みのりでの生活が穏やかで、笑顔が多いものになるような、支援を目指しています	20代から60代の14名の職員全員が常勤という恵まれた就労体制の下、メンタルの安定と仲間の和が築かれています。そのため自然な形で理念が日々実践されていますが、キャリアパス項目にも加えています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	恒例行事となった、納涼祭への近隣へのお招きに加え、組内での地域行事への参加を通じ、地域の方との交流を図っています	事業所祭りは隣組を通じてPRされ、全国大会常連の飛龍高校和太鼓や幼い頃から親しんできた「しゃぎり」の音色を堪能しています。またお誕生日会にはオカリナや日舞、ハワイアンと毎月切れ間ない来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の地域の方との交流の場において、法改正などの介護に対する疑問にお答えするようにしています。キャラバンメイトへの参加も行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、介護業界の動向、研修報告、取り組みの報告を行ったり、一般の方の介護に対する思いを伺い、サービスに生かせるようにしています	運営推進会議は世間一般の見方、考え方を知る機会となり、また業界情報を伝える貴重な場となっています。行政、地域、家族のほか介護相談員も加わり、議事録には利用者欄も設けられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村職員の方に参加頂いたり、三島市グループホーム連絡会の場で、介護現場での現実の思い、困りごとなどを相談したり、市の見解を伺ったりしながら交流を図っています	グループホーム連絡会と三島市で連携した市庁舎での展示会には、毎年利用者の力作を出品しています。市職員には臆することなく相談ができ、また依頼から地区中学校でキャラバンメイトの開催もおこなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声掛けや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作っています。また管理者から身体拘束についての正しい知識を得ています	玄関、ユニット入口は日中施錠していません。介護技術は後からついてくるものの人に対する敬意は育ちにくいとして、採用の折には特に注視しています。そのため、利用者様を「わたしの将来の姿」と見、「我が親」のように感じる職員集団であることが強みです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています。また管理者は職員のストレスマネジメントを、常に心がけています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としている利用者様はいませんが、管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、法改定時には、ご家族様に内容を十分理解頂けるよう、文書を用いて、時間を十分とり、説明を行っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問していただき、利用者様一人ひとりに、不満や悩みを聞いてくださっています。ご家族様には、いつでも要望を伝えて下さるよう、声掛けしたり、職員と話しやすい雰囲気を作ったり、ご意見箱を玄関ホールに設置しています	多様な年齢の職員が余裕をもった動きをしているため家族が話しかけやすく、また職員も会話をもつよう努めており、昼食後はサロンのように皆でお茶を飲んでいます。小さなところから聞いているので、クレームもありません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員会議や、毎日の申し送り、カンファレンス等で現場の職員の意見・提案を聞き、ケアの向上につながるよう、努めています。また管理者が職員と話しやすい雰囲気を作るよう、心がけています	会議や研修会も定期におこなわれていますが、管理者が上下の隔たりなく現場に入り込んでいることから細かなホウレンソウが実現しています。また高齢化により個別対応が求められるなか、職員の進言も増えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で、職員個々の勤務状況やの把握に努め、必要に応じ職員面接等を行い、やりがいをもち働けるよう努めています。環境・条件整備にも、少しずつですが努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修には積極的に参加し、習得した知識は、施設にて実施しています。施設内では、代表、Drなどによる全体研修(年3回)、管理者、介護リーダーによる、ミニ研修(年6回)を実施し、職員の知識、意識向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワーク作りに努めています。また自施設への見学も積極的に受け入れ、サービスの見直しや、質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、自宅に出向き、ご本人とお話しさせて頂き、不安や要望を把握できるよう、努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族様の不安、要望を把握できるよう、努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で、最適なサービスを提供できるよう、お話しさせて頂き、状況により、他サービスの紹介など、その方に適したサービスを提供できるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限に活かし、出来る事はやって頂き、出来ない事をサポートしながら、共有の家事等、手伝って頂きながら、本当の家族のように助け合う関係を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠足等の行事には、ご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に、利用者様のご様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています。またすべてを施設で担うのではなく、負担にならない範囲で、ご家族に「していただくこと」をお願いしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅や馴染みの場所で過ごして頂いたり、馴染みの方が、いつでも気軽にみのりに来て頂けるような、雰囲気作りに努めています	板前だった人はこだわりがあって自室で珈琲を入れていたり、併設のデイサービス利用者と囲碁や将棋を指す人もいます。ハーモニカボランティアが毎月訪れ、此処でのなじみの関係も生まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・生活リズム・相性などを考慮し席を決めたり、必要に応じ、職員が間に入り、利用者様同士が仲良く生活できるように努めています。可能な限り、みんなで過ごせるように配慮しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりを必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人づつ、担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご家族様の意向、ご本人様の意向を汲み取れるように努めています。	ケアプランの更新では家族にも必ず声をかけています。生活リズム・アセスメント表では24時間の流れやその人の希望や好みが一覧となってひと目でわかるよう工夫されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から、馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から、生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション、観察から、現状の把握に努め、ご本人の「生活する力」を活かせるように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの意向の聞き取りと、担当職員を中心に、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています	「職員がプランを理解することが大事」との考えからプランフォーマットは試行錯誤を繰り返して現在の形になりました。また業務日誌には1表～3表の特記事項を落とし込み、意識と実践のミエル化が図られています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・申し送り事項は、文書・口頭で職員間で共有し、介護計画や、日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設ならではの強みを最大限に活かし、型に囚われない、『利用者本位』のサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては、その把握に努め、その都度活用しながら、安全で、豊かな暮らしを実現出来るよう、努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や、ご家族様、利用者様の希望を優先しながら、病院を選択し、受診対応しています。遠方や家族対応が難しい利用者様は、施設で受診を行っています	2医院を協力医として、受診は概ね月1回をめぐりにローテーションで職員が付き添っています。1名のみ家族支援で在宅の頃からのかかりつけ医に通うケースもあり、自由に医療選択してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員が、週に一度健康チェックを行い、気になるところはアドバイスを頂くと、医療面での適切な対応が出来るようにし、支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願いし、自施設の対応体制も相談しながら、早期退院に繋がるよう、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、まず入居時に自施設の指針を説明させて頂いています。終末期には、往診や訪問看護を利用し、ご家族様とご本人様との相談を密にし、対応や方針について、変化に応じて話し合い、最良の対応が出来るように努めます	契約時に看取りに関する方針に基づき合意を以て署名をもらい、また「まだ先のことで都度変わる」ことも前提として救急対応や延命措置についても確認しています。開設から10名ほど実績があり職員の定着率も高いため事業所の力として積み重なっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応できるように備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災に対する防災訓練を行っています。気候の変化による、竜巻などの強風被害等のマニュアルも作成予定です	年2回の訓練には防災関連事業者にも入ってもらい、助言を得ています。グループホーム連絡会では近年の異常気象に即して竜巻の検討をしており、事業所内では窓ガラスから遠い場所での避難待機を体験しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアは、誇りやプライバシーを損ねないように配慮しています。普段の関わりも、「認知症の人」ではなく、おひとりの人として、当たり前関わりができるように努めています	「人をかえ、時間をかえ、場所をかえ」たり、ユマニチュードメソッドを取り入れ、本人のペースに合わせることを旨とし、また場面が変わることで気分に変化があるとして焦らず経過をみていくことも職員に示唆しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活を送る上で、可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活できるよう、支援しています。また日頃から、利用者様の望んでいることを汲み取れように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康で穏やかに、安心して生活して頂けるよう、体操・レクリエーションも、毎日取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューや、クリスマス・敬老会などの行事食を作り、季節感を感じて頂けるように、心がけています。準備や片づけは、利用者様と一緒にしています	手作りで小鉢やデザートもつき目でも愉しめるメニューです。食後にゆったりタイムを十分とってそれぞれのリズムで食事が進められ、また同じテーブルの人の状況に合わせる利用者の姿もありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専用シートに記録しています。また嚥下状態に応じ、刻み、ミキサー食にするなど、食事形態を変えて対応します。少しでも食事量が増えるように、献立以外の副食も希望によって用意します		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には、口腔ケアを行っています。特に臥床前は食べ物が口に残らないよう、念入りにケアしています。歯科医師の往診もっており、口腔内や義歯の不具合にも、迅速に対応するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。排泄量チェックも行い、水分不足を早期発見出来るようにしています	家族の費用負担や本人の快適さを鑑み、できるだけパッドを汚されないように排泄のタイミングを見計らっています。そのため自立が維持され、オムツは2ユニット中1名のみです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な水分や野菜がきちんと摂れるように、支援しています。毎日体操を行い、体を動かす働きかけもしています。毎日排便確認をし、必要な場合は、薬の使用も検討します		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、希望があれば、いつでも入浴できるよう、配慮しています。入りたくない気分ときは、無理強いせず、順番や曜日を変えるなどの配慮も行っていきます	一般浴槽のため身体状態によっては介助器具を活用したり介助者を増やして安全に湯に浸かれるよう工夫しています。在宅の生活になるべく合わせて15時半から17時を入浴時間としています。	目隠しがタオルで仮対応のため棚の中が見えてしまっていたり、普段使用しないようなものが置かれていました。5Sについて改めて職員間で話し合うことを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調や、習慣に合わせて、必要に応じて静養して頂いています。夜間は安眠出来るように、日中のリズムや、静かで快適な環境を整えるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から頂く『お薬の説明』にて、目的や効能、副作用を理解しています。誤薬しない服薬方法も実践しています。薬の変更・増減、体調の変化も確認・記録を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や食事の片づけ、洗濯たみなど、個々の保有能力を活かして家事に参加頂いています。また毎日のレクや、訪れてくださるボランティアの活動などで、楽しみを持ってるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ですが、天候、気温に配慮して施設外の公共施設、公園などへの外出を計画し、外出しています。ご本人の希望で外食や、銀行などにも外出もしています。	隣接工場の花壇が素晴らしく、建物の廻りを散歩するときは目の保養のおすそ分けをさせてもらっています。リフト対応の車輛が3台あり「今日行けるから行こう」という、思い立っての外出が常です。	年間や月間計画が難しい場合は、外出ならびに外気浴の頻度を記録しての客観的な現状データをとることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度程度、利用者様の希望に応じて、買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から希望があれば自由に電話が使えるようになっており、ご家族様やご友人とお話をされています。年末はご自宅に年賀状を送ります		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、清潔で安全な環境作りを心がけています。装飾品は、不快にならないよう、シンプルなものを中心に心がけています	施設長手彫りの居室表札をはじめ全体に木目のよさを活かした造りです。一部エリアでは整理整頓への課題があるものの、埃取りと水回りとで分けての丁寧な清掃方法で清潔です。	踊り場に置かれた消耗品の段ボールについては置き場所を替えるか、見えない工夫を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は、気の合った方と会話が弾むように配慮しています。また窓辺にソファを置き、日光浴を楽しめるようにしています。天候の良い日等はテラスに椅子を置いてゆっくりできるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、出来るだけご本人の使い慣れたものをご持参下さるよう、お願いしています。住み慣れた空間で安心して生活して頂けるよう、支援しています	敢えてエアコンと照明、洗面所のための備え付けとしていて、持ち込みを奨励しています。使い慣れた筆筒やミニ炬燵、冷蔵庫に囲まれ、ヘヤスプレーやメガネが無造作に置かれた昭和を想起させる居室も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やADLを考え、家具や手すりを配置し、安全かつ、出来るだけ自立した生活が出来るよう、配慮しています		